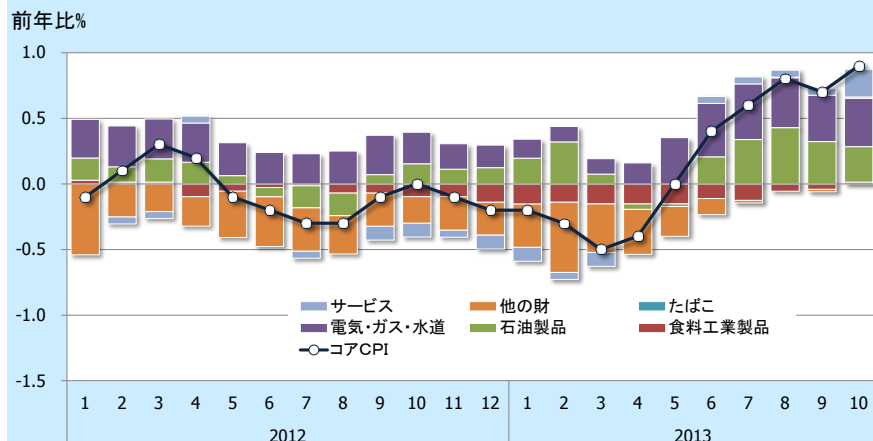


日本：消費者物価指数（2013年10月）

MRI Daily Economic Points
November 29, 2013

図表 消費者物価指数

生鮮食品除く総合の推移と品目別寄与



前年比%	12年		13年									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
生鮮食品除く総合												
全国	▲0.2	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.4	0.0	0.4	0.7	0.8	0.7	0.9	
東京都区部	▲0.6	▲0.5	▲0.6	▲0.5	▲0.3	0.1	0.2	0.3	0.4	0.2	0.3	0.6
食料エネ除く総合												
全国	▲0.6	▲0.7	▲0.9	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.2	▲0.1	▲0.1	0.0	0.3	
東京都区部	▲1.0	▲0.9	▲1.0	▲0.8	▲0.7	▲0.3	▲0.4	▲0.4	▲0.4	▲0.4	▲0.2	0.2

資料：総務省「消費者物価指数」

評価ポイント

今回の結果

- 10月の全国消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合（コアCPI）が前年比+0.9%と、5ヶ月連続でプラスとなった。上昇幅は先月から+0.2%pt増加し、2008年11月（同+1.0%）以来の上昇幅となった。
- 10月のコアCPIをみると、電気代の大幅な上昇（前年比+8.2%）、大手保険会社による値上げによる傷害保険料の上昇（同+10.1%）、外国パック旅行の上昇（同+3.7%）、パソコン（デスクトップ型：同+25.4%、ノート型：同+14.4%）の上昇幅の拡大、放送受信料（NHK）値下げの効果が一巡したこと（9月同▲6.8%→10月+0.0%）などが上昇へ寄与した。
- 食料およびエネルギーを除く総合（コアコアCPI）でみると、前年比+0.3%と小幅ながらも5年振りにプラスに転じた。上述のように、エネルギー関連だけでなく、幅広い品目での物価上昇が起きている。
- 同日発表された、11月の東京都区部消費者物価指数（中旬速報値）は、コアCPIが前年比+0.6%と、7ヶ月連続のプラスとなった。コアコアCPIも、同+0.2%と、2008年12月以来、4年11ヶ月振りとなるプラスに転じた。
- コアコアCPIがプラスに転じたのは、家事用耐久財の下落幅縮小（10月：前年比▲13.8%→11月同▲0.7%）や、テレビが下落から上昇へ転じたこと（10月同▲5.5%→11月同+2.9%）、ビデオレコーダー（10月同+0.5%→11月同+7.5%）、外国パック旅行（10月同+3.7%→11月同+14.6%）の上昇幅拡大などの要因が複合的に影響したことによる。

基調判断

- 消費者物価は上昇している。

今後の流れ

- 円安による輸入コスト増などから、電気代や石油製品を中心に値上げの動きが見られるほか、家電製品の価格下落の一服が物価の上押し圧力となってきた。
- 需給ギャップが改善しつつあるほか、円安などを背景としたコストプッシュによって物価がプラスで推移しており、基調としては緩やかな上昇が続くだろう。